

さんまい ふだ
三枚のお札 4

こぞう

「小僧め！にげたな！」

こぞう

おこったやまんばは、小僧をおいかけます。

こぞう

はしってにげる小僧でしたが、やがてやまんばがおいついて
きます。

こぞう

「小僧！まてゝっ。」

こぞう

やまんばが、せまってきます。小僧は、二枚目のお札をとり

にまいめ

ふだ

だ

出して、

おお

かわ

で

「大きな川、出ろ！」

うし

と、後ろになげつけました。

め まえ

すると、やまんばの目の前に、大きな川があらわれました。

おお

かわ

かわ

やまんばは、川へおちて、なみにのまれてしまいました。

にまいめ

ふだ

問ー 二枚目のお札をつかって、小僧

こぞう

が出したものはなんでしょう。

だ

かお

ア あたらしい顔

ひ うみ

イ 火の海

ウ ポケモン

おお

エ 大きな川

かわ

「
」

「これで、おいつけないだろう。」

そう思^{おも}って、はしりつづける小僧^{こぞう}の後^{うし}ろから、なんとやま^んばの^{こえ}声^{こえ}がします。

「小僧^{こぞう}！ まてと言^いった^ら、まてゝい！」

やま^んばは、大^{おお}きな川^{かわ}の水^{みず}を、あ^っというまに、が^ぶのみ^して、小僧^{こぞう}をお^いか^けてき^まし^た。

「し^つこ^いやま^んば^だ。」

小僧^{こぞう}は、三^{さん}枚^{まい}目^めのお札^{ふだ}をとり出^だして、

「火^ひの海^{うみ}、出^でろ！」

と、後^{うし}ろにな^げつ^けま^す。

すると、やま^んばのま^わりは、た^ちま^ち火^ひの海^{うみ}にな^りま^した。

火^ひにかこ^まれたやま^んばは、前^{まえ}にも後^{うし}ろにもう^ごけ^ませ^ん。

しか^し、やま^んばは、さ^っきか^ぶのみ^した川^{かわ}の水^{みず}を、口^{くち}から「^ぶ

はーっ」とはき出^だして、火^ひをけしてしまいました。

はしる小僧^{こぞう}は、やっとお寺^{てら}にたどりつきました。

やまんばも、お寺^{てら}の中^{なか}に入^{はい}ってきます。

お寺^{てら}の中^{なか}に、どたばたとやってきた、やまんばの前^{まえ}で、おし

ようさまは、のんきにおもちをやいていました。

「おい、にげてきた小僧^{こぞう}を出^だせ！ 出^ださねばおまえを食^くってしま^{まうぞ}うぞ！」

おしようさまは、へやのすみっこにある、大^{おお}きなつぼの中^{なか}に、小僧^{こぞう}をかくしていました。

おしようさまは、やまんばに言^いいました。

「まあ、そうあわてなさんな。せっかくじゃから、わしとばけくらべをしてみんか。おまえさんがかったら、食^くわれてやって

問2 やまんばがお寺^{てら}にやってきたと

き、おしようさまは、何^{なに}をしていましたか。「」にあてはまることばをかきま

しょう。

「」に

「」を

やいていた。

もよいぞ。」

それを聞いたやまんばは、おおわら大笑い。

「だははは、おまえが、ばけくらべで、このわしにかつじやと。

おもしろい。やってやるべ。」

すっかりいじになったやまんばは、おしようさまが

「おお大きなあれ」

と言うと、てんじようをつきやぶるほどおお大きくなり、

「ちい小さくなあれ」

と言いえば、まめつぶほどにちい小さくなりました。

「さすがじやのう。では、このばけくらべ、おまえさんのかち
じや。」

おしようさまは、そう言いうと、まめつぶほどにちい小さくなった
やまんばを、ひよいとつまみあげ、やいていたおもちのなか中にや

問3 おしようさまは、さいごにやまん
ばをどうしましたか。

ア ばけくらべにかつた、やまんばに、
ごほうびをあげた。

イ ばけくらべにかつた、やまんばに、
たべられた。

ウ おもちのなか中に、やまんばを入いれて、
ぱくりとたべた。

エ おもちのなか中に、やまんばを入いれて、
こぞう小僧にたべさせた。

「」

まんばを入れたかとおもうと、そのおもちをぱくりと食べてしまいました。

それからというもの、うら山にやまんばが出ることは、なくなつた そうです。そして、いたずら好きの小僧も、おしろうさまの言うことをよく聞くようになりましたとさ。

(おしまい)